

開催日時	2022年2月22日(火) 15:00~15:50	開催場所	※全出席者はWebexシステムによる リモートアクセスにて出席
委員一覧			
	氏名	所属	役職
◎	大山 力	電力広域的運営推進機関	理事長
○	安念 潤司	中央大学大学院	法科学研究科 教授
	安藤 至大	日本大学	経済学部 教授
	石井 達也	電源開発(株)	エネルギー計画部長
	石坂 匡史	東京ガス(株)	電力事業部長
	片山 朋宏	(株)エネット	需給本部需給オペレーション室長
	沼畑 秀樹	東北電力(株)	執行役員 発電・販売カンパニー 事業戦略部長
	花井 浩一	中部電力(株)	執行役員 経営戦略本部 部長
	松本 裕仁	丸紅新電力(株)	運用部 担当部長
	村上 堯	(一社)日本卸電力取引所	理事長
	国松 亮一	(一社)日本卸電力取引所	企画業務部長
<p>◎印は委員長 ○印は副委員長</p> <p><オブザーバー> 東 哲也 電力・ガス取引監視等委員会事務局 取引制度企画室長 下村 貴裕 資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 電力産業・市場室長</p> <p style="text-align: right;">(敬称略、順不同)</p>			

検討議案

議題 1：情報公開の検討状況について（エリアプライスにかかる需給曲線等）
 議題 2：2022 年度における運営委員会検討項目の頭出し

事務局より、運営委員及びオブザーバーの出席状況が報告された後、大山委員長が議長となり議事を開始した。

議題 1. 情報公開の検討状況について（エリアプライスにかかる需給曲線等）

事務局より、資料 1「情報公開の検討状況について（エリアプライスにかかる入札カーブの公開）」に基づき、現在の検討状況及び今後の検討事項について説明があった。概要は次の通り。

○事務局

（検討状況について）

- 前回運営委員会にて、エリアプライスの入札カーブの公開についてご議論いただき、作業部会に検討を依頼するという事で整理させていただいた。
- その後、資源エネルギー庁、電力・ガス取引監視等委員会 制度設計専門会合等での議論を受けての検討結果を報告する。本日は、それに対しての意見を頂戴したい。
- 資料は、検討状況として、前回運営委員会で検討いただいたエリアプライスに係る入札カーブに関しては、ブロック入札を表現できないという課題はあるものの、公開に向けてシステムの準備等を行うことと整理している。
- 現在、システム改修を行っており、公開開始時期は本年 6 月を目処として準備を進めている。
- 併せて、入札カーブ（需給曲線）ではブロック入札を表現できないという課題に対しては、価格感応度データというものを事務局から説明した。これは別に、既にホームページ上で公開している。
- 価格感応度データがどういうものかは、資料にも注記しているが、スポット市場のシステムプライス計算において、1 日の 24 時間、48 コマ全てに安値の売り、具体的には 0.01 円の売りを 50 万 kW 増やした場合、100 万 kW 増やした場合、500 万 kW 増やした場合、システムプライスがどう変化するかという値を示したもの。また、高値の買い、具体的には 999 円に 50 万 kW 増やした場合、100 万 kW 増やした場合、500 万 kW 増やした場合どうなるかというものを値として示したものである。したがって、ひとつのシステムプライスに対し、売りを増やしたものが 3 つ、買いを増やしたものが 3 つ、計 6 列の数字が一覧で見えるものとなっている。本年度の 4 月 1 日分から公開しており、本所ホームページで公開している。電気新聞にも取り上げられており、面白いという論評であった。
- 入札カーブに関しては CSV 形式でのデータ公開という案もあった。値の部分を知りたいということであれば、入札カーブの公開方法を現在の画像データ (PNG 方式) から、Web ページ上でグラフ描画をすることへの変更を考えている。その例としては、欧州の EPEX のホームページのように、Web ページ上のグラフにカーソルを当てれば、その数値が見えるというものへの変更を考えている。変更時期は 2022 年中を目途に、本所の jepx.org という一般公開向けホームページを大規模改修して対応したいと考えている。こうした改修等に関しては、仕様が固まった都度、その内容について運営委員会に諮り、意見を頂戴したいと考えている。

（今後の検討事項について）

- エリアプライスの入札カーブは6月を目処に公開することになっているが、そのさいのひとつの条件として、分断エリアが1エリアとなる場合は、公開の対象外とする方向で検討することを次回の運営委員会で再度説明したいと考えている。
- 何故これを公開の対象外とする必要があるのか—に対するご意見をいただきながら、どういう条件が揃えば1エリアとなる場合も公開にもって行けるのか、そうしたことも含めて議論いただきたいと考えている。

以上の説明に対する意見・質疑等は次の通り。

○大山委員長

- まず確認であるが、ブロック入札が表現できないという点について、現在は、落札したものはブロック入札も含んでいるが、落札していないものはブロック入札のデータを削除しているということ良かったか。

○事務局

- その通りである。
- 約定したブロック入札は、価格が、売りであれば0.01円のところに足して、買いであれば999円のところに足して表れている。ただし、それが幾らのブロック入札で約定したかは見えない。

○大山委員長

- ブロック入札の場合、値段が付いていない、平均幾らというものが付いている形と認識している。

○事務局

- 平均は付いている。平均は付いているが、そのカーブに達すると、他の時間帯の動向、価格によっては、ある時間帯では、ブロック入札の入札価格が平均で12円の売りであっても、約定価格が10円で約定してしまうということもあり得る。
- そういった場合には、約定点と交点の場所が変わってしまうので、かなり表現が難しい。

○大山委員長

- 少し考えてみたのだが、まず1点。全部書いてしまい、約定値段は横に線を引いたものとする形では、まずいいのか。
- 2点目だが、売れていないものも同じように入れてしまえば、非常に分かり易くなる気もするが、それではまずいいのか。

○事務局

- その場合、交点のポイントが実際の約定価格と異なることとなる。したがって、その入札カーブが何を示しているかを説明し直さなければならないと思う。
- 表示だけを変える方法と、大山委員長から提示のやり方で、入札、約定ロジックもそれで回すという方法も、一つの案かと思っている。
- ブロック入札の入札価格について、平均入札価格での入札があったものとして、全てが約定するという条件にすることは、ブロック入札の約定方法の変更という中では、十分に考えられることである。
- 2つの方法があり、まず表示だけを変えることに関しては、交点ポイントと約定価格、量が異なるということはどう考えて行くかが課題かと思う。

○大山委員長

- 約定していないブロック入札も書いてしまえば、安いけれども約定していないことがはっきり見えるわけで、ブロックが大きすぎて落札しないということも分かる。

○事務局

- 指摘の通り、そのブロック入札の量というものが、ある程度見えてくる。ブロックの約定の有無に関しては、報告に載せていないが、2 月頭からブロック入札の入札総量と約定総量を売り買いともに公表するようにしている。
- これにより売りブロックの売れ残り状況等について、量的には分かるようになった。どの辺の価格にいるのかは見えない状態である。

○大山委員長

- 少し考えているのは、これまで出していたグラフと、私が今言ったグラフと両方出せば、ブロック入札というものが何をしているか、すごく分かり易くなるのではないかということ。

○事務局

- 現在の入札カーブと、もう 1 種類のを示すことと理解した。意見を踏まえ、次回にでも用意する。

○下村オブザーバー

- 確認だが、CSV 形式でのデータ公開の要望に対して、画像データから Web ページ上でのグラフ描画による公開に変更することを検討するとしたのは何故か。
- また、これは市場参加者のニーズに沿ったものなのか。

○事務局

- 画像データから、Web ページ上でのグラフ描画に変えることに関しては、交点付近の実際の値を確認したいというのがニーズであるとの認識によるものである。
- グラフを見ながら、数値にマウスを当て、その実数字が取れるという形は、EPEX のホームページで実現されており、現在の情報技術 (JAVA スクリプト) により実現できるので、その形とした。
- 交点付近の値を知りたいというニーズには、凡そ、応えられていると思っている。
- しかし、例えば 25 万 kW の入札があって、それが日々、どう変わって行くのかといった、ある特定の入札を追いかけて行くという目的に対しては、合わないかも知れない。しかし、そのことと入札カーブの公開というものは異質な目的ではないかと考えている。
- まず、この Web ページの方法で公開し、更なる要望等があれば、それを分析して進めて行くという方法を取りたいと考える。

○下村オブザーバー

- データをダウンロードし、これを分析に使いたいというニーズを聞いていた。シンプルにデータを公開すれば良いというのが私の意見である。
- 何故この形に変更することを検討するという意思決定、提案に至っているのか、その点を聞きたい。

○事務局

- 分析に使いたいというお話だが、その分析というものが何を示すか、という点はどうかと思っている。
- 下村オブザーバーから指摘のこれを分析したいという声は、こちらでは把握できていない。或る特定の者の入札動向を分析したいという内容かと思うが、そういった声は直接聞いてはいない。

- あくまでも、交点付近の値を知りたいというニーズと認識し、このような提案に至ったものである。

○下村オブザーバー

- 新電力の意見を後程紹介する。それを聞いてもらえればと思う。

○片山委員

- 事務局とは違う意見になるかもしれないが、私も出席した作業部会で議論している。私ども新電力を含め、どちらかという、分析したいのは交点より、例えば、今、80円で札を入れている札の量が、どれ位変わって行くのかということ。
- 需給曲線全体を見たいというニーズはあったと認識している。会議の中で、私自身も発言した。
- 今回の事務局からの提案内容は、先の作業部会では議論していなかったものである。今回初めて、このようなカーソルを当てると数字が表示されるというのが提案された。
- 作業部会には旧一電も出席しており、あまり公開したくないという意見も正直あった。しかし、やはり少しでも市場を見たいという意見も多く、その中では、需給曲線全体が日々、コマ毎に、どう変わるのかを見たい、そのために、やはり何等かのデータ、CSV等、要はデータを公開してほしいとの議論があった。当然、立場の違うメンバーが20数名出ているので、結果的にひとつの意見にまとまることはなかったが、前回の作業部会は、そういうものであったと理解している。
- 結論から言えば、運営委員会でも、新電力としては、需給曲線全体、交点を見たいというよりは、需給曲線の形がどう変わって行くのかを見たいというニーズは確実にあるということを伝えたい。
- マウスを当てるとというのは作業が入ってしまう。それよりは統計的なデータが取れるやり方、データ公開を是非、検討してほしい。

○安藤委員

- 片山委員の話である程度理解できたが、CSV形式でのデータ公開の要望について、そのような形でのデータ公開が難しいものであったとするならば、それが何故なのかということの説明の方が話は早いのかなと思った。
- 私が政府の統計等を見る際、よく大変な思いをするのが、年度によってデータ形式が変わったり、CSVファイルでもエクセルで開いた時に項目がズレたりして、まとめる作業が面倒となる場合である。
- CSV形式で公開する場合には、毎回同じフォーマットで安定的に公開することが、その後の利用者の操作がし易いということに繋がる。

○石井委員

- ブロック入札の関係で少しコメントする。
まず、売り側の入札価格が分からないようにすることが、市場の健全性からすると適正だと思う。そういった対応をお願いしたい。
- エリアを小さくするとか、発電所が特定できてしまうと、売り側のロジックの細かいところまで分析できてしまうような開示の仕方は、市場としては適切ではないと考える。その辺は、丁寧な対応をお願いしたい。

○花井委員

- エリアプライスに係る入札カーブについて、公開に向けたシステム改修を進めることに異論は無い。

- その際は、分断エリア別に公開する方向で検討することとし、分断エリアが 1 エリアとなる場合は、事業者の入札行動や競争力が類推されるので、今後の検討事項にも記載されているが、公開の対象外とする方向で検討すべきと考える。
- CSV 形式のデータ提供については、作業部会でも議論があったと聞いている。仮に CSV 形式でデータ提供するにしても、どの範囲のデータを、どのタイミングで提供するかとの検討が必要である。
- 事務局からは、かなり大規模な改修になるとの話もあったので、システム改修に係る費用や工期、システムのランニングコスト、こういったものを含めて経済性を評価する必要があると思っている。
- 提供する際にも、会員のみを提供するのか、会員外にも提供するのか。例えば、研究職の方には結果データを使いたいというニーズもあると思うが、本取引所として、データ提供することについては、それなりに責任を負わなければいけないと思う。
- こうした観点を踏まえると、事前に議論しなければならないことが多いと思う。
- 検討に際しては、何時迄に何を達成するかは非常に重要である。最初からフルスペックで公開することは望ましいと思うが、公開のニーズを踏まえた中で、スピード感を考慮することも重要である。
- 今回提案されている、現時点での事務局案について、仮にこれがある程度簡単に出来るものであれば、画像データからグラフ描画という方向性でも良いのではないかと思う。
- いずれにせよ、どういったものを何時迄に、幾らのコストを掛けて行うといったところを明確に示してもらわないと評価しづらい。

○松本委員

- 先程の片山委員の発言にもあったが、私も作業部会に参加しており、その中で、事務局から説明のあった交点部分を見たいというニーズに加え、片山委員も述べられた全体像、幾らのところで、どれ位の量が入札されているか見たいというニーズ、両方のニーズがあったと認識している。
- したがって、Web ページのグラフ描画は、交点については見やすくなると思うが、全体像についてのニーズは満たされていないのではないかと思う。

○沼畑委員

- 先程、花井委員、石井委員からも発言があったが、やはり単独エリアでの情報公開となると、旧一電の入札行動、或いは価格競争力が容易に類推されることになるので、その辺は今後の検討事項に記載の通り、十分に配慮して、検討いただきたい。
- 花井委員から発言があったが、システム改修費や維持コストに関し、CSV 形式でも画像にしても、48 コマの日々のデータを公開するシステムは、かなりの規模の改修になるのではないかと思う。
- 構築コストと JEPX 会員である我々のベネフィット、費用対効果というところを十分考慮していただきたい。
- コストが掛かり過ぎると、将来的には、取引手数料にも掛かってくる可能性もあるので、そういうところを含め、我々にも全体像を示してから進めてほしい。
- もう少し中身を作業部会等で揉んでから、決めて行くべきではないかと思う。

○東オブザーバー

- 皆さんには、釈迦に説法かも知れないが、参考までに、CSV のデータ公開に関しては、海外でも、勿論、そういう取り組みもあり、その中では、有料のサービスを行っているとの話を聞いたこともある。

- システム公開に関するシステム更新やアップグレードに係る費用、コストベネフィットということも全体では考えなければならないという議論の中で、そういうやり方もあるのではないかと、そういう考え方があっても良いのかなと思った。

○事務局

- 今後の検討事項に、エリアプライス入札カーブの公開範囲と記載しているが、本日の議論を踏まえ、CSV に関して色々な議論が必要であることをあらためて認識した。まとめたうえで、引き続き、運営委員会に諮りたいと思う。
- 検討のポイントにデータ公開及び分析があるが、私が申し上げたように、ある入札だけを取り出し、それを時間軸、日付で追って行くことにより、その者の入札カーブの変化が容易に想像できる可能性があるという課題が存在する。
- また、大きなロットで入札できる者が限られている中で、そういった課題があることを認識し、もう一度整理して議論したいと思う。
- 分析、交点付近のポイントを見るという意見もある中、提案の EPEX ホームページでは、現在、画像データで公開しているものを何月何日のカーブという形でボタンを押すと、直ぐに描画できるものである。
- 表示できる個数に限りはあるが、何月何日の入札カーブと何月何日の入札カーブの両方を描画する等、インタラクティブにホームページ上でデータ確認ができるという方向である。
- 今後、しっかりと見積りたいと思うが、費用面に関しては、数千万円程度前半で可能となる範囲ではないかと予想している。
- EPEX のホームページに関しても、ご紹介できるように、次回に用意し、また議論いただきたいと思う。

○大山委員長

- CSV の公開に関する辺りには、立場が色々あるということは理解できた。基本的には、公開する方向で検討し、安藤委員からの意見にもあったが、できない場合には、その理由を示したうえで、進めてほしい。

議題 2. 2022 年度における運営委員会検討項目の頭出し

事務局より、資料 2「2022 年度における運営委員会検討項目の頭出し」に基づき、先渡市場の在り方にかかる検討及び時間前市場板情報におけるエリア別表示について説明があった。概要は次の通り。

○事務局

- 2022 年度事業計画の作成に合わせ、2022 年度に運営委員会にて検討をお願いしたいと考えている項目を紹介する。
- 議題 1 の項目も、まだ継続検討事項がかなりあるが、それと併せながら 2022 年度は次の 2 つの事項に関して、運営委員会で議論いただきたい。期中に追加となる場合もあるかと思うが、現在、予定しているものとして紹介する。

(先渡市場の在り方にかかる検討)

- 1 項目目は「先渡市場の在り方にかかる検討」ということで、卸電力市場全体を俯瞰し、電力先物市場の取引動向を踏まえたところで本取引所の先渡市場の在り方を検討するというものである。

- 取引の集中化や金融機関、多様な参加者が存在する電力先物市場への統合が望ましいと考えられるが、それまでの短期視点において、他にやることは無いのか、本当にこの先物市場への統合が望ましいものかどうかも含め、運営委員会で検討し、提言をまとめたい。
- 議論の具体的な内容としては、JEPX 先渡市場の先物市場への統合をベースに、その課題等について検討し、その結論とともに先渡市場の在り方に関する運営委員会としての提言をまとめるものである。
- 検討のポイントとしては、現在も動いている先物市場の流動性が、先渡市場の受け皿として耐えられるかどうかという点。先渡し先物に移り、耐えられるだけの流動性が確保されているのかという点である。その他、ここには記載していないが継続性の点。先物市場が実質的に継続するのかという点である。
- 先渡市場と先物市場の違いについては、もう一度整理する。
違いがあるならば、その違いは容認できるものなのか、参加者、利用者にとって受け入れることができるものかという点を整理する。
- 実際に先物市場に統合するとして、先物市場参加への障壁、加入条件等で、一部の者しか参加できず、他の者が行き場を失うということがあってはならないので、そういった点も確認しつつ、まとめることとしたい。

(時間前市場板情報におけるエリア別表示)

- 2 項目目は「時間前市場の板情報におけるエリア別表示」である。
現在、時間前市場はザラ場で取引しており、30 分毎をひとつの商品、株式で言えば××株式会社の株式といった形として、売りと買いが板の上に表示されている。
- この表示について、売られている札が西の売りであるとか、東の売りであるといった、東西の別を分かるようにするか否かということが課題として上がっており、これについて検討したいと思っている。
- こうした表示が良いことなのか、悪いことなのかということであるが、利点等を上げながら、対比させて議論したいと思っている。
- ひとつ考えられる点は、西、東というだけのエリアが特定されることにより、それだけで入札をためらう参加者が増えるかどうかということである。
- 現在でも入札に際しては、先に札を出しておくというより、誰かが出した札に対して応えるという入札が多い。そうした行動を更に助長させることになるのかどうかということである。
- エリア別に分ける利点は、そもそも何なのかということも踏まえながら、色々な視点から議論したい。
- 東西の別と書いたが、現在、足元のスポット市場では FC の分断は非常に少なく、稀になってきている。その中でも東西を分ける必要があるか否か、そういったことも考えなければならない。
- 分断が多いところは九州、関門の部分である。
では九州だけの板情報、九州の参加者しか出さない板情報を出すということになれば、先程の議論の課題、問題点が浮かび上がる。こうしたことも踏まえながら、どうすべきかを議論いただきたい。
- この 2 項目に合わせ、先の議題、今後出てくるものは随時という形で計画させていただきたいと考えている。現時点での意見をいただき、検討の参考としたい。

以上の説明に対する意見・質疑等は次の通り。

○花井委員

- 個別の項目についてはこれから詰めることかと思うが、2022 年度事業計画の策定に向けての運営委員会の検討項目の洗い出し、抽出と理解した上で質問をしたい。
- 運営委員会は昨年 6 月に第 1 回が開催されている。
その時は、事業計画に基づき、審議会における本所に関わる事案、当時は価格高騰に対応した情報公開や先物も含めたヘッジ市場の活性化、時間前市場の活性化、再エネ価値取引市場の需要家参加の 4 項目を掲げ、それを中心に検討を進めるとしてたと記憶している。そういった中で、最初に出た情報公開や、先程の 2 項目、先物市場の在り方と時間前市場の関係。これらは事業計画に基づいた検討と認識しているが、運営委員会の検討項目として 2 点しかないのかということはこの資料を見た時に感じた。先程、説明あったような来年度の事業計画策定に向けての頭出し等、その辺りの説明を書くだけで、大分、感触が違う。是非、そういった対応をしてほしい。
- 資料を見て、委員会の開催までに何を考えて、どう発言するかということに対しての、足掛かりというか、論理的に整理できるようになるので、是非、お願いしたい。
- 運営委員会は基本的に理事会から諮問されて検討を行う形である。先程、期中でも項目が増えるとの説明もあったが、現時点で事務局としては、この 2 点が検討項目と考えているのか。
- 運営委員会でを行う全体像が見えて来ない。事業計画の策定に対し、事務局はどう考えているのか、何か考えがあれば教えてほしい。

○事務局

- ご指摘の通り、この 2 点だけではないと、勿論、思っている。
- 2022 年度には、情報公開に関しても検討を継続的するものであり、期中に生ずる新たな検討項目も色々あるかと思うが、少なくともこの 2 点は 2022 年度中に議論に着手し、何等かの結論は得たいと考えているものである。そうした観点で上げたものである。
- 全体感としては、国の勉強会で卸電力市場全体の在り方というものが議論されている中、それに合わせ、本所の運営委員会としてどう考えるのかをまとめて行く必要があると考えている。皆様の意見を聞きながら、取引所の意見を作るという大きな論点もあろうと思う。それらをまとめ、資料も見合った形にしたいが、事務局としては、少なくともこの 2 点はやらなければいけないと認識し上げている。

○花井委員

- 全体の流れは了解した。3 月の年度末に向けて、運営委員会としての検討課題は、年度の事業計画として、一旦、まとめる予定なのか。

○事務局

- 一部は事業計画に記載する予定である。明確になっている事案は、それを検討する旨を事業計画に明記する予定である。前述の 2 点は明記する予定であるので掲げている。
- 継続的に行うデータ公開の検討や、取引所の在り方に関する点は、運営委員会で行うとは明記していないが、2022 年度の中で、本取引所の中でしっかり検討しなければならないと考えている。
- 本取引所の市場運営に係る検討は、まず運営委員会で議論することを定めているので、そうした中では、勿論、他の検討項目も出てくるであろうと思っている。
- 事業計画がもう少し固まり次第、それも合わせて、運営委員会にも提示したい。

○花井委員

- 了解した。是非、宜しく願います。

○下村オブザーバー

- 花井委員と同じ意見であるが、私も、第 1 回運営委員会にオブザーバーとして出席し、事務局からのヘッジや時間前という検討項目の提案に対し、更なる 3 点を運営委員会での検討項目として要望している。
- 1 点目は、JEPX の危機管理の在り方。年間 4 兆円を動かす大市場であるところの危機管理の在り方はこれで大丈夫かといった議論である。
- 次に組織体制の話である。これも、そうした大きなお金を動かす組織として、今、十分な組織体制が整備されているかといった論点である。
- 更には、今の事業計画という点。この 3 点についても議論してほしいということを第 1 回運営委員会でコメントしている。
- 今回は記載の 2 点が特に JEPX としても審議したいとのことであるが、第 1 回運営委員会からも、先のコメントをしているので、検討いただきたい。

○事務局

- もう一度、議事録を確認して、ご指摘の検討事項の検討の場に関して考えさせていただきたいと思う。
- 運営委員会でも、組織体制や危機管理の在り方についてしっかりと意見をいただくということかと思っており、記載するように調整したいと思う。

○沼畑委員

- 今日は頭出しで、議論はこれからと思うが、少し確認したい点がある。電力先物との統合の検討ということだが、この電力先物市場というのは何を指されているのか。現在、TOCOM と EEX が、実際に取引できる場であるが、それらは当所と別の機関が行っている。そうした中で、JEPX の先渡取引を統合するというのは、どういうイメージなのか。この点について、事務局の考え方を確認したい。

○石坂委員

- 本日は頭出しということなので、他に事案は無いのかとの観点から 1 点コメントする。1 月の制度設計専門会合では、JEPX の資料にブロック入札のロジック追加、リンクブロックと書かれていた。また先日の制度設計専門会合の事務局資料にも、EPEX のブロック入札には色々な種類があるという紹介があった。ブロック入札のロジックをどうするかについて、1 月の制度設計専門会合の資料には 2022 年度中を目途との記載があったが、これも相当に大きなテーマになるのではないかと思います、確認する次第である。

○事務局

- 沼畑委員からの、統合は何を意味するのかとの質問についてであるが、ありていに言えば、私どもの先渡を止めて、先物市場へ案内することである。先物市場としては、存在している TOCOM を指すものである。TOCOM への案内が出来るか否かを見極めて行くことと思っている。
- 石坂委員から指摘のリンクドブロックは、当方が記載を漏らしてしまったものである。リンクドブロックの具体的ロジックに関して紹介し、意見をいただきたいと考えている。

○石井委員

- 是非、ブロック入札についても検討課題に入れてほしい。
- 次回までに、この辺りを整理し、2022 年度中というよりは 2022 年度の中でのスケジュールを示してもらえると有難い。

○事務局

- 本日いただいた事項をまとめ、石井委員からの指摘も踏まえ、次回、もう 1 回、こういったものを整理し紹介したいと思う。

○大山委員長

- 宜しくお願いする。皆様から意見を踏まえ、事務局は、今後、更に検討を進めてほしい。

○村上委員

- 本日、事務局から 2022 年度における検討項目の頭出しという形で、2 つ提示したが、頭出しということで理解いただきたい。
- 現在、来年度の事業計画について固める作業をしているところであり、下村オブザーバーをはじめ、委員の方々から指摘いただいた点については、事業計画の中の事項として、何らか触れるような形で対応している。同時に、記載できるところについては、スケジュール的な点も触れる形で、最終的に固めようとしている。何らかの形で、近く紹介できるものと思っている。
- 本日は、あくまでも優先的に、或いは色々なニーズの高さという点から見て、とりわけ運営委員会で検討いただきたい点について頭出しをしたもの。或いは、情報公開の中で、議題 1 として取り上げたことについて本所としてしっかりと取り組まなければいけないとの認識を示したものである。勿論、そういった市場の関る事項以外の体制面、或いはシステムの運営面、危機管理の問題等をも踏まえ、事業計画の中で触れたいと思っている。

○大山委員長

- 更に検討を深めて行きたいということだと思う。
それでは以上を持ちまして、第 5 回の運営委員会を閉会といたします。

○事務局

- 今後のスケジュールについては、詳細が決まり次第、従前の形で案内します。宜しくお願いします。

以上をもって、本日の運営委員会は 15 時 50 分に議事を終了し、散会した。

以 上